



マイナンバーカードは慎重に

伊藤 好晴 議員

Q 紙の保険証存続を
マイナンバーカードと健康保険証の強引な一本化は、法律上「任意」とされているカード取得を義務化するものである。当初は任意としながら、国民の義務とされる制度を組むけるなど言語道断である。
マイナンバーカードの普及がなかなか進まないのは、国民が必要としていないからに他ならないと思う。
さまざまなトラブルの中で、一番大きなリスクに発展する可能性があるのが『マイナ保険証』と考える。別人の情報登録され、その情報をもとに患者の取り違えが起きると、飲んではいけぬ薬を飲んでしまうなど、人の命や健康に直接関わる重大な問題に発展する可能性がある。ほかのトラブルとは質が違う。
ミスを総点検し、リスクがなくなったことが確認できてから『マイナ保険証』を使っても決して遅くない。



現在『1年』としている併用期間を長く認め、新たにでてきたトラブルに対処していく。そうした進め方の方がマイナンバー制度全体への信頼が高まると考える。
国民からも、医療現場からも反対の声が上がっているマイナ保険証の義務化は、個人の権利と個人情報保護の基本的原則に反するものであり、紙の保険証の存続を国に強く求めるべきだと思うがどうか。

A 併用期間で解決を求める
町長塚原隆昭
十分な周知と説明を町村会として要望している。
マイナ保険証が大きなりスクになる可能性はあると思う。入念なデータ確認などが必要だ。(国には)保険証と併用できる1年間で、課題の解決に努めてもらいたい。

A 調査はこれから

町長塚原隆昭
浄水場14か所で11月までに原水について検査する。検査結果は、ホームページで公開する。

1期目の総括と2期目への抱負は



高橋 英次 議員

Q 4年間の総括を
行政報告で「任期中の町政運営を総括し、新たな決意を持って次期町長選挙に再び挑戦したい」との発言があったが、1期4年の総括を。
A 全身全霊で取り組んだ
町長塚原隆昭
就任時はコロナ禍で、豪雨災害もあった。医療・福祉施設の職員の皆さんのご苦勞や、建設業者の会社を挙げての対応には、大変感謝している。
町長は、任期4年の中で公約に掲げた政策を実行し、結果を出さなければならぬ。実行しても結果がついてこなければ、リーダーとして失格だと思ふ。
反省することも多くあったが、議会や町民の理解と協力を得て、職員と一緒に町政運営に取り組んでこられたことに感謝する。
飯南町の発展のため、全身全霊で取り組んできた。

Q まちの将来は?
飯南町のあるべき姿を、どう実現するのか伺う。
A 笑顔と誇りで未来につなげる
町長塚原隆昭
実現には産業振興が一番重要だ。
若者・女性の魅力ある雇用の場の創出、安定した医療福祉サービスの提供、災害に強いまちづくり、特色のある教育の推進、高齢者が生涯現役で過ごせる環境づくりに取り組む。



Q 新社会人の地元生活応援は
新社会人となって、地元に残り地元で就職し、地元での生活を望む人すべてにに対し、どう報いるのか。
A 制度の拡充を検討
町長塚原隆昭
職種を限定せず、給付型の支援金拡充の方法を検討している。
本町へ帰ってきて仕事をする、本町で働く意思を持つ若者、本町で腰を据えて頑張ろうとする若者への応援により定着し、まちづくりの担い手になって欲しいという思いがある。

これらは、人口減少対策につながり、町の活性化にもつながってくる。
A バランスの取れた高齢者福祉に
町長塚原隆昭
地域内で仕事を生み出し、そこで活躍して地域を支えていただく仕組みができないか考えたい。
福祉サービスを受ける側、提供する側、両方の無理のないバランスの取れた高齢者福祉を目指す。
「町長は、どちらかというと高齢者に目を向けていないのでは」と指摘だが、決してそういう思いで町政運営はしていない。
飯南町で安心して老後が過ごせる「まち」にしていきたい。

Q 高齢者福祉は
若い人への施策は多く見受けられるが、高齢者が安心して老後を過ごせる生活を含め、町長の高齢者福祉に対する思いを問う。